



(シンポジウム『未来の社会創造』21世紀の医療の姿と社会デザイン) 1. グローバル・ヘルスと持続可能な社会の創造

著者名	戸田 隆夫
雑誌名	東京女子医科大学雑誌
巻	87
号	4
ページ	132-132
発行年	2017-08-25
URL	http://hdl.handle.net/10470/00031747

doi: 10.24488/jtwmu.87.4_132(https://doi.org/10.24488/jtwmu.87.4_132)

第83回東京女子医科大学学会総会

日 時：平成29年9月30日（土）13：00～16：10

会 場：東京女子医科大学 弥生記念講堂

総合司会（副会長）橋本悦子

総 会 13：00～13：15

挨 拶

（会長）吉岡俊正

庶務報告

（庶務担当幹事）内田啓子

会計報告

（会計担当幹事）杉下智彦

シンポジウム 「『未来の社会創造』21世紀の医療の姿と社会デザイン」 13：25～16：10

座長（東京女子医科大学医学部国際環境・熱帯医学教授・講座主任）杉下智彦

1. グローバルヘルスと持続可能な社会の創造 （独立行政法人国際協力機構 JICA 上級審議役）戸田隆夫
2. 国民皆保険の将来—人口構造の変容と医療政策の課題— （政策研究大学院大学教授）島崎謙治
3. 在宅ケアの未来予想～在宅医療で医療を変える，地域を変える，文化を変える～
（医療法人ゆうの森理事長）永井康徳
4. 社会変革の新しい担い手 （ケアプロ株式会社代表取締役社長）川添高志
5. イノベーション教育とウェルビーイング
（慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授）前野隆司
6. 今，あらためて，“生まれる場所”，“死ぬ場所”を考える
（津田塾大学学芸学部国際関係学科教授）三砂ちづる
7. 総括 （東京女子医科大学医学部国際環境・熱帯医学教授・講座主任）杉下智彦

シンポジウム

『未来の社会創造』

21世紀の医療の姿と社会デザイン

1. グローバル・ヘルスと持続可能な社会の創造

（独立行政法人国際協力機構 JICA）

戸田隆夫

グローバル・ヘルスとは，単なる保健分野の国際協調を指すものではなく，グローバル・ガバナンスを構成する不可欠の要諦である。ミレニアム開発目標（MDGs）とこれに続く持続可能な開発目標（SDGs）において，国際的なコンセンサスが形成され，そこにおいて，すべての人々が健康な人生を生きるために，具体的かつ不可欠な手段として，ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）が明示されたことは保健分野の観点からのみならず，持続可能な社会の創造に寄与する点からも，意義深い。

グローバル・ヘルスは，国際社会，地域，国，コミュニティそれぞれの階層におけるガバナンスと相互の階層

間の連携を前提とする。グローバル化が不可逆的に進展する今日の世界において，各国・地域が自分の「庭先」だけを掃き清めておけば済む，ということではなく，世界中を見渡して，最も脆弱な国々，最も困難な状況にある人々にまで光を当てた取り組みが不可欠である。

日本は，2015年の国連総会（SDGsの成立）ほか，累次の国際政治日程において，グローバル・ヘルスに関するリーダーとして能動的な役割を果たしてきた。そのような日本のハイプロファイルな国際貢献を支えているのが，日本自体の開発経験と，日本の途上国に対する国際協力の経験である。日本がその経験知を，自国のみならず世界の人々の健康のために役立て，世界の平和と安定に寄与し，ひいては，その真摯な努力から日本が国際社会の信頼を得ていくことが大切である。

2. 国民皆保険の将来—人口構造の変容と医療政策の課題—

（政策研究大学院大学）

島崎謙治

わが国は1961年に国民皆保険を実現し，さらに1973